

天然ウナギ放流

浜松で3団体
漁獲増目指す

天然ウナギの稚魚（シラスウナギ）の漁獲量回復を目指して、浜松うなぎ料理専門店振興会など、浜松市のウナギの漁

産卵を控えた親ウナギ約250匹を放流した。参加したのは同振興会と浜名漁業協同組合、浜松うなぎ販売組合。近年シラスウナギの漁獲量が激減したため危機感を抱

き、合同で保護方法を模索してきた。

ウナギの生態についてはなぞが多いが、近年の研究で、産卵のために川や湖から海に出たウナギはマリアナ諸島沖で産卵

し、生まれた稚魚は黒潮に乗って日本にたどり着くという経路が解明されてきた。

今回の事業はこの研究結果に基づき、浜名湖で3年ほど育った親ウナギを舞阪港で漁船に積み込み、浜名湖今切口沖約5キロで放流した。

ギの放流事業に乗り出した。「たぐさんの稚魚が浜名湖に帰ってきてくれたら」（関係者）と願いを込めて25日、遠州灘に

楽団は1986年に交流を始めた。30周年記念事業でも、合同公演などを計画している。

特別演奏会は静岡市駿

河区のグランシップで、

午後2時半から。全席自

由。チケットは一般2千

円、高校生以下千円。



船にウナギを積み込む事業関係者ら＝浜松市西区の舞阪港